

津市立南が丘小学校だより

かがやく未来

2024. 4. 30 N07

ママが好きそうかなってこの色を選びました

丁度1年前、あるランドセルメーカーの実証実験の映像を目にしました。(youtube「ランドセル選びドキュメンタリー編」で検索)冒頭部分で子どもは自分で好きな色のランドセルを選び、親のところに見せにいきます。親は「この色を選ぶと思っていた」と喜び、安心します。しかし、メーカーが子どもに与えた指示は「親が喜ぶ色を選ぶ」というもので、実際、次の指示で子どもが選んできた色はどの子も全く異なるものでした。



アドラー心理学という方法でカウンセリングや企業向けの研修を行っている岩井 俊憲という人は親には①専制主義的(独善的・過保護・過干渉)、②民主主義的、③放任主義的の3つに分けられると言います。①のタイプは進学先だけに限らず、付き合う友人関係や細かいことについても口を出し子どもを支配しようとし、このタイプの親に育った子どもは大人になった時に自分の行動に対して親のささやき(呪縛)に悩まされるといいます。私もその1人で、今でも一度「自分はどう思っているのか」と毎回、問い直しをしながら行動をしています。親が子どものことが心配で、自分の経験を生かしてアドバイスをすることは当たり前のことです。子育てに正解はありませんし、その家庭ごとに考えが異なるのも理解しています。また、ある時は①がいい場合、ある時は②や③がいい場合があるかもしれません。でも、この話はご家庭だけの話でもなく、学校の教師が自分事としてとらえなければならぬと感じました。

今回の映像を見てあらためて“子どもは大人をよくみているなあ”“小さいながらに親の思いをよく感じているのだなあ”と思い、親や教師の前で「良い子」を演じるのではなく、素直に“実は私ね、本当は…”と言えるように気をつけていかなければならないと思います。(宜しければ動画を検索してご視聴ください。)

校長室に興味津々

個人的に校長室のカーテンを閉めたまま、執務に当たるのは圧迫感・閉塞感があって気になるためカーテンや窓を開けながら仕事をしています。

子どもたちは今まで見たことのない校長室の中を外側からのぞき込んでくれています。中には「校長先生っ」と声をかけてくれる子もいて、窓越しにも子どもたちと話をすることができ、楽しいひと時を過ごすことができます。

